



社会福祉  
法人

一人ひとりに愛と希望を

九十九里ホーム

第 14 号

平成18年7月31日発行

# ひとつぶの麦

社会福祉法人

九十九里ホーム

〒289-2147

千葉県匝瑳市飯倉21番地

TEL 0479-72-1131(代)

<http://www.99-home.com>



マイ アイランド (聖マーガレットホーム 澤田 明江さん)

・・・海も大きく豊かでその中を動きまわる大小の生き物は数知れない。  
舟がそこを行き交いお造りになったレビヤタンもそこに戯れる。

— 旧約聖書 詩編 104 —

聖マーガレットホーム入所者の澤田明江さんが、スティックをくわえてパソコンで、海とそこに浮かぶ島の絵を描いてくださいました。

聖書の中で、海は暗いものとしてとらえられています。天地創造の始まりのときの「闇が深淵の面」にあるというような、暗黒の深い海のイメージです。あらゆる活動がこの海によって抑えられてしまいそうな感じです。ところが、そんな中で上の詩編の言葉は例外的で、海は明るいとこでたくさんの生き物が動きまわり、人々も舟で盛んに交易し、海の恐ろしさを象徴していた怪獣レビヤタンも楽しそうに遊んでいると歌っています。私たちに立ちふさがる暗闇と思われた海が、実は神さまの豊かな恵みで満ちあふれていると伝えています。

島も、暗い海の中にいると思えば「孤独」、「孤立」を連想させてしまいますが、もう一度周囲の海を見つめ直してみると実は豊かな恵みと可能性に囲まれていることに気づかされる。古代の詩人はそんなことを私たちに語っています。

日本聖公会八日市場聖三一教会牧師

九十九里ホーム・チャプレン 司祭 竹内一也

## 九十九里ホームの歩み <第二回>

### 戦中・戦後の激動の時代から地域の結核治療の拠点として

前号にて、九十九里ホームの創立者であるA. M. ヘンテ女史と設立当初の九十九里ホームの状況をご紹介いたしました。本号では、その後第二次世界大戦中から戦争後の激動の時代を経て、昭和30年代にかけて本格的な結核療養所として結核治療を行っていたころについてご紹介いたします。

### 戦中・戦後の激動と九十九里ホームの推移

A. M. ヘンテ女史は、英国聖公会の宣教師として来日以来、日本におけるキリスト教の伝道活動と社会福祉活動に専念し、また、当時の日本における結核患者の状況を憂い、昭和10年に結核患者のための保養所である九十九里ホームを設立されました。しかしながら、日本が日中戦争から太平洋戦争へと続く戦争の時代へと進んでいく中、イギリス人であるヘンテ女史は、心ならずも日本を離れざるを得ない状況となり、昭和15年一時的に母国イギリスへと帰られました。



ヘンテ女史の送別記念（昭和15年10月）  
（1列目右から5人目がヘンテ女史、4人目が松本正雄師）

た。ヘンテ女史が日本を離れた後、戦争中の困難な中、理事であった日本聖公会の松本正雄師、松原喜七師、職員の林あささんたちの多大な努力と入寮者の協力などにより九十九里ホームは運営されてきました。当時は、社会保障制度などほとんどない中、低額の費用で療養できる九十九里ホームは入寮希望者が大変多く、これらの方々の要望に答えるべく、何回かの増改築を経て、設立当初の定員18名を何とか35名まで増やすことができました。そして、昭和17年3月には、社会福祉活動への貢献が認められ財団法人の認可を得るまでに至りました。しかし、前号でもご紹介したように、ヘンテ女史の困っている結核患者を助けたいという設立の精神を受



け、1日あたり80銭という破格の安さの寮費は維持され、経営は引き続き苦しい状況が続きました。苦しい経営の中、経営陣も職員と一緒に働き、職員も骨身を惜しまず療養患者のために献身的にお世話をし、特に食事は大変美味しいとの評判でした。

太平洋戦争の末期には、医療も国によって管理されるようになり、医療機関は国の統制機関である日本医療団という団体の傘下に入ることになりました。九十九里ホームも日本医療団の傘下に入らざるを得ない状況となりましたが、ヘンテ女史の志を残し、戦争が終わりヘンテ女史が日本に戻られた後も、九十九里ホームが存続していることを第一と考え、何度もの折衝を重ね、財団法人九十九里ホームが無償で土地建物を日本医療団に貸与することと、九十九里ホームの代表者を事務長としその他の職員もそのまま雇用することを条件に、日本医療団の傘下に入ることを了承しました。これにより医療団が解散したときには事業や資産が返還され、元の財団法人九十九里ホームとして存続できることが可能となりました。財団法人九十九里ホームは、終戦直前の昭和20年8月1日、「結核療養所日本医療団九十九里荘」と名称も改め新たな出発をしました。また、この時点で医療機関としての認可も受けることとなりました。施設長として、当時八日市場保健所の所長であった医師の本田保三氏が所長兼務のまま就任し、事務長に松本正雄師、新たに職員として大谷猛氏が入職しました。

昭和20年8月15日に終戦となりましたが、終戦直後は、極端な食料・物資不足で経営を維持するのに深刻な苦労があったようです。日本軍の解体に伴い放出された薬品や衣料品等で一息つき、また、通称ウラ物資と呼ばれるアメリカからの救援物資が、病院や福祉施設に配給されるようになり、粉ミルク、粉末鶏卵、その他缶詰類は食糧難に喘ぐ当時の施設にとっては、まったく天の恵みのような存在でした。松本正雄師が、配給物資を千葉県庁まで受け取りにいったところ、一回では持ち帰ることができず、何回かに分け市川にあった師の自宅に一旦運び、その後リュックサックで九十九里ホームに持ち帰ったそうです。

昭和22年3月、戦時中の医療統制機関であった日本医療団は解散し、「九十九里荘」も元の財団法人九十九里ホームの経営に戻り、名称も「九十九里ホーム療養所」として、戦後の再出発をしました。幸いにも、医療団傘下にあったころに取得した医療設備や資材等は低額で有償譲渡を受け、医療機関としての認可も引き続き九十九里ホーム療養所に引き継がれることとなりました。この年ヘンテ女史も無事再来日され、東京の品川に居住され月島教会を拠点に日本での活動を再開されました。その後も、経営に苦しんでいた九十九里ホームのために引き続き多額の援助をしてくださいました。

## 本格的な結核療養所を目指して

終戦後の荒廃した状況の中、結核はますます蔓延し重大な社会問題となっていました。九十九里ホームもこれに対応すべく、結核療養所としての態勢を整える方針を決めました。昭和24年、折りよく本田保健所長の推薦で結核の専門医である高倉鎮雄医師を所長として



昭和26年の第二病棟落成祝の余興  
(中央が花嫁に扮する高倉鎮雄元理事長、  
左から2人目が花婿役の大谷猛元専務理事、  
右端が市野衛司祭)

迎えることができ、病床も次第に増やし昭和25年の段階で50床までになりましたが、まだまだ不足しており常に多くの結核患者の方に待機していただかねばならない状況でした。当時の結核の治療法は、抗生物質による治療がまだ本格的には始まっておらず、肺を人工的に収縮させ病巣の治癒を促進させる人工気胸が中心でした。

政府は、国民病とまで言われた結核の撲滅に向け昭和26年に結核予防法を制定し、本格的な対策をとるようになりました。同法に基づき、結核の予防と蔓延防止の為に積極的な施策がたてられ、まだ医療保険制度が整備されていない当時において、結核医療については費用の半額が補助され、また、公立、公益法人立の結核療養所に対しては、設備の拡張、改善等に費用の半額が補助されるようになりました。また、同年には社会福祉事業法も制定され、戦後の社会福祉制度の法的基礎が整い、九十九里ホームは、昭和27年5月14日同法に基づき、それまでの財団法人から新たに設けられた社会福祉法人へと転換しました。

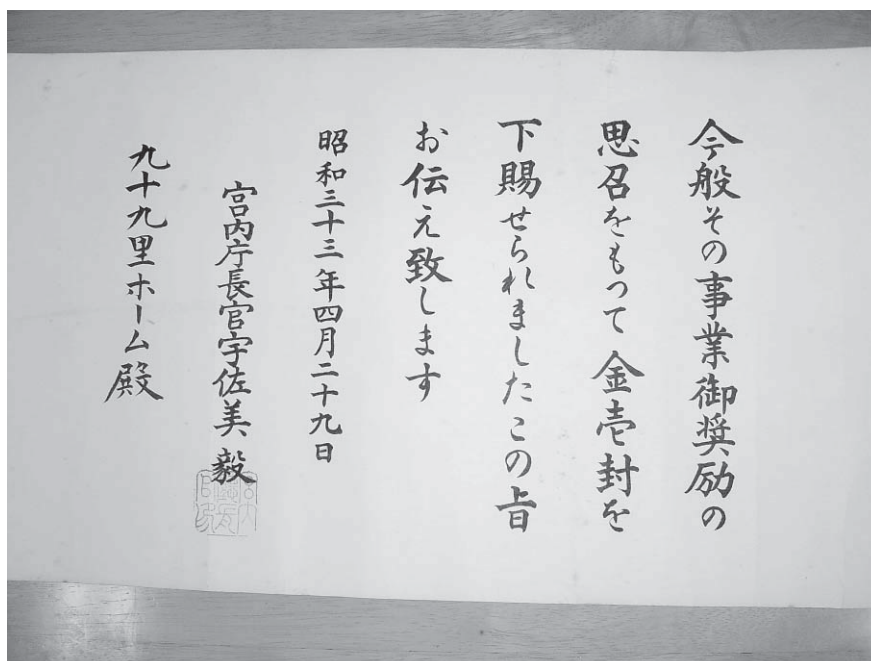
表 1 九十九里ホームの病床数の推移

年度（昭和）	24	25	26	27	28	29	30～31	32
病床数	37	50	66	81	96	135	175	177

このような法的基盤が整うに伴い、九十九里ホームは「胸部外科の設備を持った200床の結核療養所の建設」という目標を立て、その実現に向け事業を進めていきました。昭和27、29、30年と続けて国庫補助金を受け、これに共同募金の配分金も加わって、昭和32年までに177床の結核療養所を整備することができました（表1参照）。治療面では、抗生物質による治療が本格的に威力を発揮するようになり、昭和30年には治療棟が完成し、手術室が設置され胸部外科も開始されました。胸部外科手術の実績は、民間療養所では千葉県下でもトップクラスに入るなど、県内の結核治療の拠点としての機能を果たすまでになりました。また、医療面においては結核医療を専門とする高倉鎮雄所長が、運営面は専務理事に就任した大谷猛氏が担い、その後の当法人の基礎が形作られた時期でもありました。

そして、昭和30年から34年にかけて皇室より異例の4度に渡る御下賜金<sup>おかしぎん</sup>を賜るなど、九十九里ホームは、それまでの結核治療に対する社会的貢献が認められるまでになりました。

尚、第3回以降の九十九里ホームの歩みにつきましては、本広報誌にて随時取り上げていきます。



おかしぎん  
御下賜金の伝達書



## 安心と信頼を お届けします

—九十九里ホーム訪問看護ステーション—

### 【訪問看護】

看護師がご自宅へお伺いして、健康管理（褥瘡の発見、血圧のチェックなど）を始め、在宅療法全般に関する事（清潔面の援助、入浴の介助、排泄のコントロール、介護に関する相談など）、褥瘡の処置、カテーテルの管理、理学療法士・作業療法士と連携してのリハビリテーションなど、ご利用者が笑顔で過ごせるよう、医師との連携も含め、医療の視点を持ってお手伝いさせていただきます。

利用者様から「看護師さんが、定期的に訪問してくれるので、安心できる。」という言葉と笑顔を励みに、心のこもったケアを提供していこうと、日々努力しています。

### 【訪問リハ】

訪問リハでは、理学療法士や作業療法士がご自宅にお伺いし、ご本人やご家族と一緒に動作や介助の方法などを練習します。

主に寝たきりの方や寝起きや歩行に介助を要する方で、通院が困難な場合を対象にしています。訪問の内容は、寝返りや起き上がり、立ち上がりや歩行等の基本動作の練習や介助方法の指導の他、食事動作や排泄動作などの日常生活動作の手順についての指導などを行ないます。また、一時的に体力が低下した場合なども、早期から運動を行うことで、廃用障害を予防します。

在宅で過ごされる方の生活の幅が広がり、介助者の方の負担が少なくなるよう、一緒にご相談しながらリハビリテーションをすすめていきます。

## ご利用の案内

**訪問日**：月曜日～金曜日

**時間**：8：30～17：00

**訪問内容**：訪問看護・訪問リハ

**訪問地域**：匝瑳市・横芝光町・旭市の一部（旧干潟町）・多古町

※ご利用を希望される方は、担当のケアマネージャー、または当ステーションへご相談下さい。

○連絡先：九十九里ホーム訪問看護ステーション

TEL：0479-72-1131（代表）





## 祝100歳 ～市野カツ子さんにインタビュー!～

聞き手 九十九里ホーム病院 看護学生 小俣 妃里

今春（平成18年）5月6日に、特別養護老人ホーム松丘園名誉園長の市野カツ子さんが満100歳のお誕生日を迎えられました。

市野さんは九十九里ホームに永きにわたり勤められ、当法人のために多方面でご尽力、ご活躍されました。1955年（昭和30年）10月から、九十九里ホーム病院（当時は九十九里ホーム療養所）にて総看護師長、また1978年（昭和53年）4月～1996年（平成8年）4月は特別養護老人ホーム松丘園々長を歴任され、1989年（平成元年）には看護業務において永年貢献した功績が認められ、勲五等瑞宝章を受章されました。そして、現在は当法人のミスヘンテ記念ケアセンターにて日々の生活を送られています。現役を退いた後も、引き続き松丘園名誉園長でもあり、“市野基金”を立ち上げ、看護師を目指す後進のために支援して下さっています。

今回、“市野基金”にお世話になり、現在午前中は九十九里ホーム病院で現場の経験を積み、午後は看護学校で勉学に励む小俣妃里さんが、市野さんからいろいろなお話を伺いました。そのなかの一部分を皆さんにご紹介いたします。

**小俣** 「この度は100歳のお誕生日、おめでとうございます。」

**市野** 「ありがとうございます。」

**小俣** 「今日は九十九里ホーム、そして人生の大先輩でもある市野さんに今までの体験談などをいろいろとお話ししていただければと思います。よろしくお願いします。」

**小俣** 「それでは早速、お話を聞かせていただきたいと思いますが、市野さんが最初に看護師を目指したきっかけは何でしたか？」

**市野** 「私が看護師になりたいと思ったのは小さい時からの夢だったんです。出身は福島ですけど、その当時、父の仕事の関係で宮城の気仙沼にいて、当時は学校と言っても尋常小学校と高等科しかない時代で、夢を叶えるために新聞の広告を見て仙台まで出て、午前



中は歯科助手として働き、午後は「中村看護学校」で学んで看護師の資格を取りました。その後、今の聖路加国際病院にいた方と知り合いだったこともあって、それがきっかけで東京に出てきました。それが私の看護師になった頃の話です。」

**小俣** 「ところで、九十九里ホームにはいつ頃来られたのですか？また、その頃の九十九里ホームの様子などを教えていただけますか？」

**市野** 「茨城の白十字病院というところで仕事をしていた頃、結婚した七つ年下の夫が八日市場にある聖三一教会の牧師で、もともとその教会と縁のあった当時の九十九里ホームの専務理事さんたちが熱心に私を誘ってくれて、また夫も応援してくれたこともあり、昭和30年頃にここへ来ました。…その頃のここ（九十九里ホーム）は結核の療養所だったこともあって、そばを通るだけの人でさえ、口や鼻をふさいで通るほど誰もが避けるようなところでした。だから、後にこんなに今みたいに大きな施設になるとは想像もつかなかったです。」

**小俣** 「看護師として永く勤められたと伺っていますが、その頃の苦労話などあったら教えていただけませんか？」

**市野** 「私は仕事に関しては、全てにおいて“苦労”だと思った事は一度もなかったから、“苦労話”というのではないですね。仕事というのは人に言われてからやるものではないと思っていました、とにかく自分ができることは全部やる、それだけでしたね。あと、仕事で誰かに叱られた記憶はないですね。」

小侯 「叱られたことがないんですか？」

市野 「ないですねえ（笑顔）。」

小侯 「松丘園でお仕事をされていた頃についてお話を聞かせていただけませんか？」

市野 「はじめ自分が園長になって欲しいと言われた時は、何もわからないし、不安だったんですよ。」

「でもとにかく毎朝、働いている方と生活している方（利用者）に話しかけることをしていました。私はそれが、自分の仕事だと思っていましたから…。」

「あと、その頃は、今と違って自分のことは自分でできる方が多かったですねえ。」

小侯 「私自身が今お世話になっている"市野基金"を設立され、後進に道を開いて下さっていますが、この基金を立ち上げた時の趣旨あるいはお気持ちをお話いただけますか？また、私たち看護師の後輩に期待することはありますか？」

市野 「きっかけは私の後輩となる人たちに、とにかく頑張って欲しいという願いがあったからです。」

「今勉強している人たちには真面目に頑張っ  
て欲しいと思っていますけど、看護師の仕事に携わる人（職員）たちだけではなく、それ以外の業務をしている人（職員）たちも今の仕事を精一杯頑張っ  
て欲しいと願っています。」

小侯 「先程のお話にもありましたが、八日市場聖三一教会の牧師の奥様であったということですが、その頃の教会についての思い出をお話いただけますか？」

市野 「教会というと、ここチャペル（九十九里ホーム内の聖マーガレット礼拝堂）のことを思い出すけど、毎日雑巾で拭き掃除をしていたのを覚えてます。」

小侯 「私も毎朝、朝礼の前に雑巾がけをしています。」

市野 「ああ、そう！昔と変わってないのね！（笑顔）」

市野 「そうそう、あと私の夫がイスラエルに行った時に買ってきた写真が、今でもこのチャペルに飾ってあるんだけど、それをこの間散歩に行った時に見かけてすごく懐かし  
く思いました。」

小侯 「その写真は私も毎朝見えています！（笑顔）」

市野 「（笑顔）」

小侯 「九十九里ホームの創立者であるヘンテ女史についてお聞かせ下さいませんか？」

市野 「そうですねえ…。ヘンテ先生はこの近くに住んでいたんですよ。あと、聖書について話されていたことが多かったことを憶えていますね」

「先生は話しをする時は日本語でしたけど、カタコトの日本語でした。」

「あと、先生の思い出といえば…、聖書とお祈りの本だけを持ってイギリスへ帰られましたが、その後、また日本に戻ってこられたことを憶えています。」

小侯 「最後にもう一つお話を聞かせて下さい。現在、ケアセンターでは毎日どのような生活を送られているのか、感想など聞かせていただけますか？」

市野 「楽しく生活していますよ。一人部屋で過ごさせてもらっているし、すごく過ごし易いですよ（笑顔）。…感想といわれても特にはないですけど、ケアセンターの職員をはじめ、九十九里ホームの職員には元気に仕事を頑張っ  
て欲しいと願っています。」

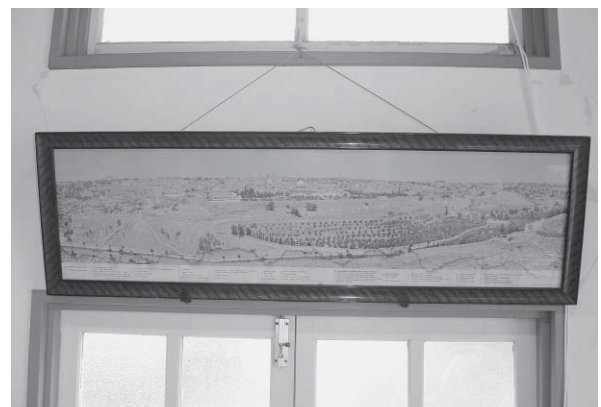
小侯 「ありがとうございます。私も仕事と勉強の両方、頑張ります。」

「今日は長い時間本当にありがとうございました。」

今回はいろいろなエピソードや体験談をお話いただきありがとうございました。なかでも、私たちへのメッセージ的なもので「仕事で“苦勞した”と思ったことはないです。」の一言が特に印象に残りました。

市野さんにはいつまでもお元気でいらして欲しいと願っています…。

2006. 5. 24



「市野カツ子さんのご主人（市野衛司祭）がイスラエルにて購入した写真」



## 野球同好会 「初勝利!!」

九十九里ホームナイン、ついに“初勝利”を手に入れました。前号でも紹介した通り、昨年の6月に「九十九里ホーム野球同好会」が結成され、ひたむきな努力の成果は今年5月、花を咲かせました。

5月6日(土)光スポーツ公園野球場にて行われた対野栄学園戦にて、先制点を逃がしたものの、1回裏に6点、6回裏には12点、計18点の大量得点で、終わってみれば18-8の快勝でした。夜6時から3時間に及ぶ選手達の努力が今回の勝利につながったのでは、ないでしょうか。また、今後の活躍に益々、期待がふくらみます。

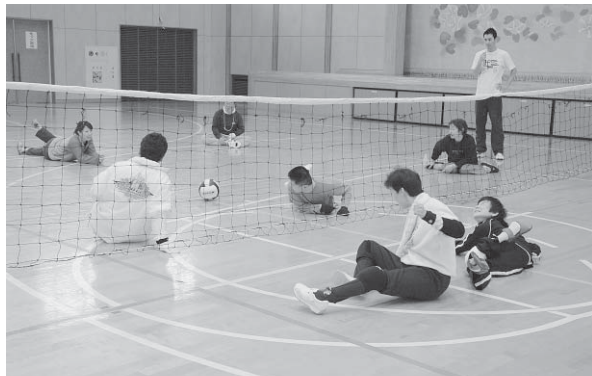
次回の試合についても、多くの皆様方の応援、宜しくお願い致します。



## 『くも 九十九ファミリー』メンバー募集中

ローリングバレーボールチーム『くも 九十九ファミリー』を結成してから約2年が経ちました。皆様に協力していただいたおかげで現在15名程度の人数が集まりました。

本年5月7日には読売新聞の千葉版に九十九ファミリーのことが紹介され、その記事を



見た方々から「私の子供も参加させてもらえますか?」「新聞を見たのですが、私にもできますか?」「福祉教育の一環としてできないですか?」と多数の連絡をいただき、実際に練習に参加された方もいます。九十九ファミリーのメンバーはその人に合ったスタイルでプレーを楽しんでいるのでどなたでも楽しんでいただけたと思います。参加してみたいと連絡をする、この一歩はとても勇気がいることだと思います。まずは見学でもいいので勇気を出してその一歩を踏み出してみてください。多くの方の参加を心からお待ちしております。

<連絡先> 聖マーガレットホーム  
永野まで TEL 0479-79-1905

## リハビリテーション講習会

～取り組みの動機と意義について～

九十九里ホーム病院リハビリテーション科では、平成16年度よりリハビリテーション講習会を開催しています。今年度も6月に患者(利用者)様のご家族を対象に開催し、10月には法人内各専門職種を対象とした講習会も予定しています。

そもそも、なぜ講習会を開催しようと考え

たかという「患者(利用者)様に対して、日々の生活能力を最大限に引き出すような介助・介護を行えば、それが素晴らしいリハビリテーションになりうる」と、皆様に知っていただくことが目的でした。また、患者(利用者)様のご家族から「何かをしてあげたい気持ちはあるが、何をしたら良いか分か



らない」「介護に追われて精神的に疲れきった」等の相談が多数あったこともきっかけの一つです。

それらをふまえて、①法人内各専門職がリハビリテーションに対する共通認識を持つことで、患者（利用者）様へのより質の高い介護に結びつく、②患者（利用者）様とご家族が双方にとってより良い生活を送れるように、介護の中心にいるご家族に介助方法を習得していただく、ということを目指して講習会に取り組んでいます。

これまで、たくさんの方々に参加していただきました。参加された皆様からは「障害が理解できた」「日頃の介護の再認識ができた」「今後の介護に役立つ」等の好評をいただ

ています。これらの感想を聞くと、これまで手探りで進めてきたものが、少しずつ実ってきたと確認が出来て安心しています。今後も皆様のご意見を参考に計画していきますので宜しくお願いします。



## 助成事業の報告

### 日本船舶振興会(日本財団)よりリフト車の寄贈

(九十九里ホームデイサービスセンター)



車椅子に座ったまま乗降できるリフト車はご利用者の送迎時に大変役立っております。

また、車体に描かれているイラストはとても印象的で走行中にも注目を浴び、大変好評です。今後も安全運転を心がけ、ご利用者の方々の送迎に活用させていただきます。

### NHK歳末たすけあいよりの寄贈

NHK歳末たすけあいの受配品として、千葉県共同募金会を通じて、特別養護老人ホーム松丘園には、洗濯機3台・除湿機3台、聖マー



(特別養護老人ホーム松丘園)

(特別養護老人ホーム松丘園・

聖マーガレットホーム)

ガレットホームには、洗濯機3台・掃除機2台・ハンディタイプクリーナー1台・トースター2台・除湿機3台を寄贈していただきました。



(聖マーガレットホーム)

ご利用者が快適に過ごせるように、日々の生活の中で有効に活用しております。関係者の皆様、ありがとうございました。

## 家族の会よりピアノ寄贈

(聖マーガレットホーム)



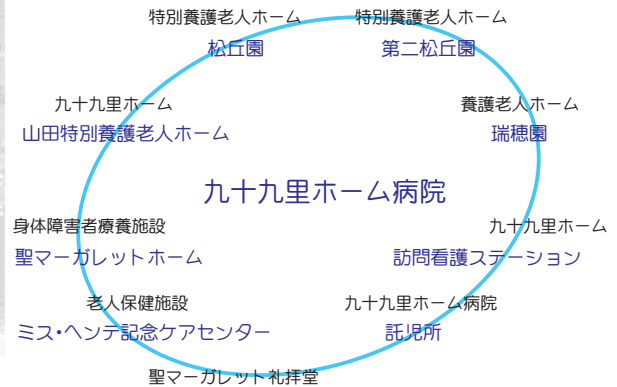
聖マーガレットホーム・家族の会より、自動演奏ピアノを御寄贈いただきました。すてきな演奏を聴きながら

食事や行事などに有効に活用いたします。ありがとうございました。



法人本部全景

### 九十九里ホームネットワーク



## — こんな時、医療相談室をご利用下さい! —

九十九里ホーム病院『医療相談室』では、2名の相談員（医療ソーシャルワーカー）が、患者様やご家族の皆様の様々なご相談をお受けしています。

### ☆どんな相談ができるの？（例えば…）

- ・入院生活における心配ごとや不安なこと
- ・苦情や、ご要望について（些細なことでも、お気軽にご相談ください）
- ・医療費の支払いなど、経済的なことで心配がある
- ・退院後、家に帰ってからの生活が不安
  - \*一人暮らしで、お世話してくれる人がいない
  - \*寝たきりになってしまったので、家族で介護できるか心配
  - \*自宅で生活しやすいように、家の改修や、介護用品、福祉機器が必要
- ・自宅での生活は無理なので、施設を紹介して欲しい
- ・介護保険や福祉サービスについて知りたい
- ・身体障害者手帳や障害年金は、どのように手続きをしたら良いのか
- ・入院や転院に関する相談

### ☆相談を希望される方は…

#### 《相談受付時間》

月曜日～土曜日 午前8：30～午後5：00（日曜、祝日はお休みです）

\*相談内容については秘密を厳守いたします

\*ご相談は無料です

#### 《相談方法》

\*医療相談室宛てにお電話をいただくか、看護師・その他の職員にお申し出ください  
（面談中や不在の時は、お待ちいただくいたり、日を改めていただくことがあります）

\*事前に面談の予約をしていただければ、確実にお時間をおとりできます

\*ご来院の際は、受付にお声かけください

#### 《連絡先》

電話 0479-72-1131（代表）

FAX 0479-73-7165